

自分たちの地域は自分たちで守る 自主防災会認定証交付式

8月7日、宇城市庁議室において自主防災組織が結成された行政区に対して、初めての認定証の交付が行われ、今回は御領五区、北萩尾区、中小野区、耕地区、南部田区、亀崎区の6行政区の嘱託員に、阿曾田清市長から手渡されました。

宇城市は、今年度から災害発生時の被害の軽減と地域活性化の推進を狙いに、災害対策の準備、被災時の初期活動および地域活動の原動力となる自主防災組織の計画的普及に取り組んでいます。

災害発生時に迅速に対応するためには、現場の迅速・正確な情報が必須となりますが、その役割を十分に果たせるのが自主防災組織と捉えており、この結成には「自分たちの地域は自分たちで守る」という隣保協同の精神が必要です。

たとえば、平成15年7月に水俣市で発生した土石流災害時には、自主防災組織は1行政区であったものが、現在では220(100%)の組織が結成され、住民の自主防災組織への取り組みがうかがえます。

☎ 危機管理課 ☎ 32-1766



阿曾田清市長から認定証を受け取る嘱託員

宇北京オリンピック日本選手団総監督に就任 宇城市出身の上村春樹さん

8月8日から24日まで開催された北京オリンピック競技大会で、宇城市小川町出身の上村春樹さん(全日本柔道連盟専務理事)が、北京オリンピック日本代表選手団総監督を務めました。上村さんは1976年のモントリオールオリンピック無差別級金メダリスト。

柔道男子66キロ級で優勝した内柴正人選手の表彰式では、オランダのアントン・ヘーシングさん(東京オリンピック無差別級金メダリスト)と一緒にプレゼンターとして登場。「内柴選手は、よく粘って最後まで攻め通してくれた。価値ある金メダルだ」と健闘をたたえていました。



当時の上村さん祝勝パレードの様子を伝える広報紙(昭和51年)



「地域密着」をキーワードに首都圏の消費者にアピール



商品を品定めする来店者

新たなブランド商品づくりを目指し 県内初「ワイン・リキュール特区」に

宇城市は、7月9日付けで、少量でもワインとリキュールの製造が可能となる「ワイン・リキュール特区」として内閣総理大臣より認定されました。

通常、酒造免許を取得する場合に必要な年間の最低生産量は6klですが、今回の特区認定により、ワインの場合は2kl、リキュールの場合は1klに緩和され、より小さな規模での免許取得が可能となります。今回の計画の名称は、「宇城の地のもんでワイン・リキュール特区」。

農業の盛んな宇城市で、フルーツを中心としたさまざまな特産品を使って、魅力あるワイン・リキュールを生産・販売していくことで、地域が活性化することを目的としています。

宇城市地域再生マネージャーの斉藤俊幸さんが免許申請や創業に関してさまざまなアドバイスを行います。ご希望の方は、雇用対策課☎32-1906までご連絡ください。



8月7日に開催された「宇城市特産酒類特区活用推進会議」

東京・府中の商店街に開店 宇城市のアンテナショップ「どぎゃん」

宇城市の農産加工品などを販売するアンテナショップ「どぎゃん」が7月25日、東京・府中市晴見町商店街(大堀隆康理事長、加盟65店舗)の一角にオープンしました。宇城市が総務省から委託を受けて実施している地域再生マネージャー事業の一環。

店名の「どぎゃん」は、熊本弁で「どうですか」「いかがですか」の意味で、同商店街の空き店舗(約25平方メートル)を改装し、特産品のトマトやオレンジのジュース、ジャムなどを販売します。秋ごろには生鮮品も品ぞろえする予定。

また、店の一角に、不知火町に開設した街づくり拠点施設「まちなか研究室 ひまわり」と結ぶテレビ会議システムのコーナーを備えていて、店内から地元農家の人たちと会話することも可能です。

オープニング式典では、阿曾田清市長が「東京に宇城市のブランドをどんどん売り込みたい」と述べ、トマトジュースで乾杯。来店者にブルーベリーなどを配りました。

選手みんなが勝者だ! ちびっこトライアスロンinとよの



オリンピックの正式競技にもなっているトライアスロン

8月17日、豊野小学校と周辺の道路で「第12回宇城市ちびっこトライアスロンinとよの」が開催されました。

この大会は、キッズのトライアスロン愛好者にとっては定評のある大会となっており、今回も宇城市内はもとより岡山・福岡・鹿児島・佐賀など県外も含めて196人の個人と17組のリレーチームの参加がありました。

会場となった豊野小学校では早朝から、腕と足にレースナンバーを書き、自転車にナンバープレートを取り付けるなど、大人のトライアスロンレースさながらの光景が見受けられました。

表彰式後は、子どもたちお楽しみの「とらいあてろん」。マウンテンバイクなど豪華商品の当選者が決まるたびに会場となった体育館には大きな歓声が上がっていました。

海を舞台に健康づくり 不知火町伝馬舟競漕大会



手こぎの部でゴールを目指す参加者

8月3日、不知火町松合の松合新港で、第15回不知火海伝馬舟競漕大会が開催されました。照りつける真夏の太陽の下、企業や地域グループ39チームが参加。往復150~200mのコースを5人編成の手こぎの部、3人編成の櫓(ろ)こぎの部で技術とスピードを競いました。

各チーム、おそろいのハッピーや奇抜な衣装でその存在をアピール。あいにくの強風で、隣の舟とぶつかったり、右往左往したりするチームもあり、観客席から大きな笑い声が聞かれました。